



教育目標「げんきで なかよく がんばる子」

松が谷

令和7年度学校経営報告号



八王子市立松が谷小学校

令和7年度 八王子市立松が谷小学校 学校経営報告

校長 沓澤 広明

めざす学校像「子供も大人もウェルビーイング (Well-Being) な学校」を掲げ、日々の教育活動を行ってまいりました。保護者アンケートの「学校教育目標の『げんきで・なかよく・がんばる子』を知っている」「学校は『ウェルビーイングな学校づくり』を行っている」の2つの項目で、肯定的な回答がそれぞれ98.0%、89.0%と高い数値でした。「ウェルビーイングな学校づくり」は3年目となり、保護者の皆様にご理解を得られていると実感しています。今年度の基本方針と方策に対する具体的な取組や、成果と課題についてご報告いたします。

<今年度の基本方針と方策等に対する具体的な取組や成果と課題について>

◆豊かな心の育成	
方策等	成果 (○)、課題 (▲)
<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情を育む教育活動 ・異学年交流の推進 ・いじめを生まない、許さない学校づくり ・不登校児童への支援 ・子供たちの個性や特性を尊重 ・障害や性、文化等の多様性への理解 ・共生社会を生きるための基礎の育成 ・児童一人ひとりに応じた指導と環境整備 	<p>○児童一人ひとりのよさや努力を認め、励ます指導を日常的に行うことにより、自己肯定感や自己有用感を高める教育活動を推進することができた。</p> <p>○学級活動や道徳の時間においては、児童が成功体験を積み重ねられるよう活動を工夫し、自信をもって学校生活に取り組む姿が見られるようになった。・道徳授業地区公開講座 (9/30)・松が谷フェスティバル (2/8)</p> <p>○年間を通したたてわり班活動や学校行事における異学年交流により、学年を越えた関わりが深まり、高学年児童が下級生を支える姿など、主体的な姿が見られた。・たてわり集会 (通年)・たてわりスペシャル (10/24)</p> <p>○いじめの未然防止及び早期対応については、「いじめ対策委員会」を中心に継続的な情報共有を行うとともに、「子ども見守りシート」を活用した家庭との連携を図りながら、組織的な対応体制の充実を図ることができた。・教員向けいじめ防止研修 (7/24)</p> <p>○今年度より年間を通じた活動になった「思いやりたっぷりたっぷり」において、クラスごとに思いやりあふれる取組について話し合い実践することで、いじめを許さない雰囲気をつくり、いじめ防止の一助となった。</p> <p>○不登校傾向の児童に対しては、担任、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が連携し、家庭訪問や学習用端末を活用した支援を行うことで、学校とのつながりを維持する取組を進めることができた。・校内委員会 (毎月1回)</p>
<p>思いやりたっぷりたっぷり活動</p> 	
<p>たてわりスペシャル</p> 	

松が谷フェスティバル



▲児童の人間関係や心理面の変化をより早期に把握し、いじめや不登校の未然防止につなげていくため、教職員間の情報共有や家庭との連携をさらに強化していく必要がある。

▲児童の多様な特性や背景を踏まえた個別的な支援や安心して過ごせる居場所づくりについて、学校全体としてより計画的に推進していくことが求められる。

◆確かな学力の育成

方策等

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進
- ・問題解決的な学習が展開できるよう探究的な学習の過程を重視
- ・5、6年生の一部教科担任制の実施
- ・学習用端末の活用
- ・振り返り活動の徹底

地域探検



学習用端末の活用



校内研究



成果（○）、課題（▲）

○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、対話や体験を重視した授業づくりを推進することで、児童が主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。特に総合的な学習の時間や生活科、特別活動においては、課題設定から調査、整理、発表に至るまでの探究的な学習過程を重視した授業改善を進めることができた。

○ペア学習やグループ活動を工夫することで、児童同士が意見を交流しながら学びを深める学習環境の充実を図ることができた。

○5・6年生においては一部教科担任制を実施し、教科担任間での情報共有を図りながら教科の専門性を活かした授業改善を進めることができた。

○学習用端末を調べ学習やプレゼンテーション資料作成、学習の振り返り等に活用することで、児童の主体的な学びを支えるツールとしての活用が定着してきている。

○「めあて—振り返り—次へのつなぎ」を意識した学習サイクルを授業の中に位置付けることで、児童が学習を振り返り自己調整する力の育成にもつながっている。

○校内研究では、テーマを「協働して主体的に学び続ける松が谷っ子の育成をめざして ～共に学び合い、伝え合う授業づくりを通して～」とし、そよかぜ学級の研究授業（9/8）、5年生の研究授業（10/28）、6年生の研究授業（12/9）を実施し、研鑽を深め、授業改善に努めた。

▲児童一人ひとりの理解状況に応じた学習課題の設定や指導の個別化をさらに進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が相互に高め合う授業改善を継続していく必要がある。

▲学習用端末の活用については、情報活用能力の育成を視野に入れながら、教科の特性に応じた効果的な活用方法をさらに研究していくことが求められる。

◆健やかな体の育成

方策等

- ・運動や運動遊びの楽しさが実感できる環境整備
- ・昨年度までの校内研究を活かした体育指導の充実

成果（○）、課題（▲）

○校庭や体育館の運動用具の整備を進め、児童が日常的に運動に親しむことができる環境の充実を図った。

○昨年度までの校内研究の成果を踏まえた体育指導を行うことで、児童の運動技能に応じた分かりやすい指導や評価の工夫が進み、体育の授業に主体的に取り組む姿が見られた。

- ・運動の日常化、習慣化への取組
- ・給食と連携した食育活動の推進



持久走旬間




長縄旬間

○体力調査（松が谷オリンピック）や朝・休み時間の運動活動を継続して実施することで、運動習慣の形成を図る取組を推進することができた。・体力調査（6/5）・長縄旬間（12/8～12/18）・持久走旬間（1/13～1/22）

○食育については、給食管理員と連携した「食育メモ」の活用や食に関する授業を通して、児童の食への関心を高める取組を進めるとともに、創立50周年を契機として郷土食や季節の食材について学ぶ活動を展開することができた。・1年生そら豆の皮むき（5/28）・3年生とそよかぜ学級トオモロコシの皮むき（7/2）・もったいない大作戦（11/18から1週間）・創立50周年記念スペシャルメニュー（1/30）
 ▲児童の体力や運動習慣には個人差が見られることから、すべての児童が運動の楽しさを実感できるよう、日常的な運動機会の確保や体育授業のさらなる工夫を図る必要がある。
 ▲食育についても家庭との連携を視野に入れながら、児童が主体的に望ましい食生活について考える機会の充実を図ることが求められる。

◆特別支援教育の充実

方策等	成果（○）、課題（▲）
<ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援学級」開級に伴う交流・共同学習の推進 ・「特別支援教室」との連携強化 ・専門性の向上  <p>松が谷中5組とそよかぜ学級の交流</p>	<p>○今年度開級した「そよかぜ学級」については、合同授業や学校行事、松が谷中学校特別支援学級との交流会等を通して、交流及び共同学習の機会を確保し、児童相互の理解を深める取組を進めることができた。</p> <p>○「ひだまり教室」と学級担任との定期的な情報共有の場を設けることで、児童の状況に応じた支援体制の充実を図ることができた。</p> <p>○外部講師を招いた研修会の実施や特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の整備を進めることにより、教職員の特別支援教育に対する理解と専門性の向上を図ることができた。</p> <p>▲児童の多様な教育的ニーズに対応するため、特別支援学級や特別支援教室、通常学級との連携を一層深め、学校全体で支援する体制をさらに充実させていく必要がある。</p> <p>▲教職員の専門性向上に向けた研修や情報共有を継続し、個に応じた指導の質の向上を図ることが求められる。合同授業や学校行事で協働活動する場面を設定し、互いの理解を深める機会を確保する。</p>

◆家庭・地域との連携

方策等	成果（○）、課題（▲）
<ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年記念関連行事への取組 ・地域との協働推進 ・小中一貫教育の充実 ・保幼小連携の推進 ・松が谷高校との連携 	<p>○創立50周年記念式典や関連行事を通して、児童・保護者・地域が学校の歴史を振り返り、これからの学校の在り方について共に考える機会をもつことができた。・創立50周年記念式典（1/30）・みんなで楽しく大作戦（通年）</p> <p>○学校運営協議会や青少年対策地区委員会等との連携により、地域と協働した教育活動を推進することができた。・地域清掃（6/28 10/11 3/7）・あいさつ運動（10/20・24）・地域交流ふれあいコンサート（12/6）</p>



創立50周年記念式典



青少対あいさつ運動

○小中一貫教育については、義務教育9年間を見通した共通の児童・生徒像のもと、連携した教育活動を進めることができた。

・6年生の部活動体験(6/30)・国語、社会、道徳の中学校授業体験(1/14)・出前授業(2/25)

○近隣の保育園・幼稚園との連携を図り、連絡会や交流活動を通して円滑な接続に向けた取組を進めた。・保幼小連携の日(8/28 1/13)

○松が谷高校との連携では、今年度は実施できなかったが“たけのこ掘り”や高校生による“放課後英語授業”など、特色ある教育活動を継続して実施することができた。・3、4年生対象の放課後英語教室(月に1回)

▲家庭や地域との連携をさらに充実させるため、学校の教育活動についての情報発信を一層工夫するとともに、地域の人的・物的資源を活用した教育活動の充実を図っていく必要がある。

◆安心・安全な学校づくり

方策等

- ・安全教育の充実
- ・服務事故防止の徹底
- ・教育活動の情報発信

避難訓練 煙体験



成果(○)、課題(▲)

○避難訓練(年間11回)やセーフティ教室(6/13)、薬物乱用防止教室(2/24)、交通安全教室(5/28)、自転車安全教室(7/8 2/4)等を計画的に実施し、児童が自ら安全を守る意識を高める取組を行うことができた。

○教職員に対しては服務事故防止に関する研修や注意喚起を継続的にを行い、服務規律の確保とコンプライアンス意識の向上を図ることができた。・職員会議(月1回)・服務研修(7/18 1/7)

○学校だよりやホームページ等を通して教育活動の情報発信を行い、学校の取組を保護者や地域に広く伝えることができた。

▲児童の安全意識をさらに高めるため、日常生活指導と安全教育を関連付けた継続的な指導を行っていく必要がある。

◆服務事故防止については、引き続き教職員一人ひとりの危機意識を高めるとともに、組織的なチェック体制の強化を図っていくことが求められる。

今年度は、本校の学校経営方針に基づき、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の調和のとれた育成を柱として教育活動を推進してまいりました。あわせて、特別支援教育の充実、家庭・地域との連携の強化、安心・安全な学校づくりなどについても、教職員が組織的に取り組んできました。とりわけ、創立50周年という節目の年を迎え、本校の歩みや地域とのつながりを改めて見つめ直し、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を進めることができたことは、大きな成果であったと考えております。また、ICTの活用や探究的な学習の推進など、児童が主体的に学ぶ授業づくりも着実に進んできました。一方で、児童の多様な教育的ニーズへの対応、いじめや不登校の未然防止、体力向上への取組などについては、引き続き組織的に充実させていく必要があります。今後も、教職員が力を合わせ、児童一人ひとりが安心して学び、健やかに成長できる学校づくりを一層推進してまいります。